

# 拓く 研究人

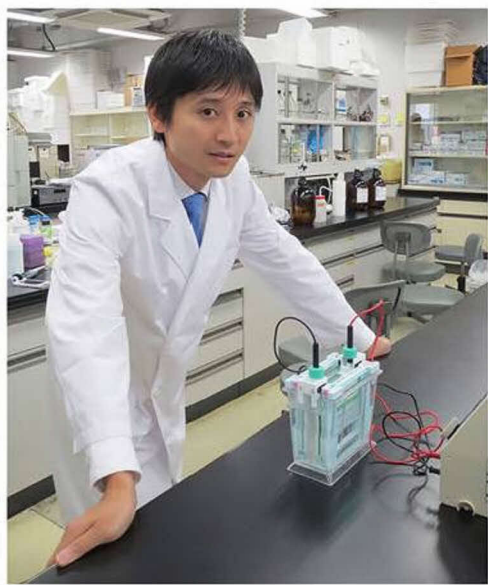
145

(36歳)

星薬科大学講師 五十嵐 信智 氏

薬の飲み合わせや食品水の関わりに踏み込む前撮りによる影響など、体段階として、細胞における薬物の作用に注目の水分子の移動を制御する薬物動態の学問が薬る膜たんぱく質「アクア動学だ。ここでは「薬はポリン(AQP)」の研究水とともに飲む」のが鉄究に取り組む。

人体の6割を水が占めるなど、身近で関心が高水だが「体内の動き腫、目が乾燥するドライの解明は遅れている」とアイ、皮膚の乾燥など星薬科大学の五十嵐信智 まざまな症状に係る講師は打ち明ける。薬とる。五十嵐講師のターゲット



であっても、対処法の提の学科の2本立ての事を思いつつ視野を広く持案や治療薬の開発を通が多い。五十嵐講師の時つスタンス、考えることじ、現場につながるという意識が重要だ」と強調されたが、就職活動をしそ果、「研究にもっと取りする。そのためには臨床びれてしまい、進学。現組みたい」と方向転換の問題を抱える病院や薬場に關心もあつたため、し、博士課程に進学。そ局の薬剤師、医師、患者研究と薬剤師業務の研修のまま母校の教員となつた。 「最終的な意識は患者院を活動の場を選択した。就職もそこに決めた。4年制、6年制のいずれの学生に

ットは、腎臓に次いで水Pの多少が影響することの移動が多い腸管におけるなどを明らかにした。 杉山清教授(現副学長) 学部だからの思いもある。理学部でなく薬免許取得を目指す学科に刺激を受けた。多方面る」。実感あふれる「現場主義」を研究と教育に導入している。

## 研究と教育 現場主義貫く

子)

(編集委員・山本佳世

(水曜日に掲載)